



サンプルのカスタム レポート

Active IQ Unified Manager

NetApp
October 15, 2025

目次

サンプルのカスタム レポート	1
クラスターストレージレポートをカスタマイズする	1
クラスター モデル別に容量を表示するレポートを作成する	1
未割り当てのLUN容量が最も多いクラスターを識別するレポートを作成します	2
最も利用可能な容量を持つHAペアを表示するレポートを作成します	2
古いバージョンのONTAPを実行しているノードを表示するレポートを作成します	3
総容量レポートをカスタマイズする	4
最大容量に達した集計を表示するレポートを作成する	4
80%以上使用されている集計を表示するレポートを作成します	5
オーバーコミットされている集計を表示するレポートを作成する	6
ボリューム容量レポートをカスタマイズする	6
スナップショットの自動削除がオフになっている、容量がいっぱいに近づいているボリュームを識別するレポートを作成します。	7
シンプロビジョニングが無効になっているボリュームで使用されているスペースを識別するレポートを作成します	7
データをクラウド層に移動する必要がある	
FabricPoolアグリゲート上のボリュームを識別するレポートを作成します	8
Qtree容量レポートをカスタマイズする	10
ほぼ満杯のqtreeを表示するレポートを作成する	10
NFS共有レポートをカスタマイズする	11
アクセスできないマウントパスを持つボリュームを表示するレポートを作成します	11
デフォルトのエクスポート ポリシーを使用しているボリュームを表示するレポートを作成します。	11
ストレージVMレポートをカスタマイズする	12
最大ボリューム制限に達したストレージVMを表示するレポートを作成します	12
停止したストレージVMを表示するレポートを作成する	13
ボリューム関係レポートをカスタマイズする	14
障害の原因別にボリューム関係をグループ化するレポートを作成する	14
問題別にボリューム関係をグループ化するレポートを作成する	15
特定の時間間隔でのボリューム転送の傾向を表示するレポートを作成します	15
ボリューム転送の失敗または成功を表示するレポートを作成します	16
転送サイズに基づいてボリューム転送を表示するレポートを作成します	17
日別にグループ化されたボリューム転送を表示するレポートを作成します	17
ボリュームパフォーマンスレポートをカスタマイズする	18
FabricPoolが有効になっていないアグリゲート上の大量のコールド	
データを含むボリュームを表示するレポートを作成します。	18

サンプルのカスタム レポート

以下に記載するサンプルのカスタム レポートを使用して、潜在的な問題を発生前に特定して対処することができます。

レポート リストはすべてのレポートを網羅しているわけではなく、今後も増えていきます。このセクションに追加して欲しいカスタム レポートがあれば、ドキュメントに関するフィードバックの形で提案していただくことができます。



レポートを操作するには、アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

クラスターストレージレポートをカスタマイズする

このセクションのクラスター ストレージ レポートは、それぞれのストレージ システム リソースの監視に役立つクラスター容量に関するレポートの作成方法を説明するためのサンプルです。

クラスター モデル別に容量を表示するレポートを作成する

クラスターのストレージ容量と利用率をストレージ システム モデルに基づいて分析するためのレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、クラスター モデル別に容量を表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > クラスター をクリックします。
2. [表示] メニューで、容量 > すべてのクラスター を選択します。
3. レポートに不要な「Cluster FQDN」や「OS Version」などの列を削除するには、「表示/非表示」を選択します。
4. 「Total Raw Capacity」、「Model/Family」、および 3 つの集計列を「Cluster」列の近くにドラッグします。
5. 「モデル/ファミリー」列の上部をクリックすると、結果をクラスター タイプ別に並べ替えることができます。
6. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: 「Capacity by Cluster Model」) でビューを保存します。
7. インベントリ ページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
8. スケジュールの追加 をクリックして、レポート スケジュール ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行

の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、特定のクラスタに容量を追加したり、古いクラスタ モデルをアップグレードしたりすることができます。

未割り当てのLUN容量が最も多いクラスタを識別するレポートを作成します

未割り当てのLUN容量が最も多い（0.5TBを超える）クラスタを検出するレポートを作成して、ワークロードを追加できる場所を特定できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、未割り当てのLUN容量が最も多いクラスタを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > クラスタ をクリックします。
2. [表示] メニューで、容量 > すべてのクラスタ を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「未割り当て LUN 容量」列を「HA ペア」列の近くにドラッグします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - 未割り当てのLUN容量が0.5TBを超えている
6. 「未割り当て LUN 容量」列の上部をクリックすると、未割り当て LUN 容量の最大値で結果を並べ替えることができます。
7. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前（例：「未割り当てLUN容量の最大値」）でビューを保存し、チェックマーク (✓)。
8. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. 新しいレポートのスケジュール特性を定義できるように、「スケジュールの追加」をクリックして「レポート スケジュール」ページに新しい行を追加します。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、クラスタの未割り当てLUN容量を使用できます。

最も利用可能な容量を持つHAペアを表示するレポートを作成します

新しいボリュームやLUNのプロビジョニングに使用できる容量が最も多いハイアベイラ

ビリティ (HA) ペアを検出するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、新しいボリュームやLUNのプロビジョニングに使用できる容量が多い順にHAペアをソートして表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > クラスタ をクリックします。
2. [表示] メニューで、容量 > すべてのクラスタ を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「Aggregate Unused Capacity」列を「HA Pair」列の近くにドラッグします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - アグリゲートの未使用容量が0.5TBを超えている
6. 「未使用の総容量」列の上部をクリックすると、未使用の総容量の最大量で結果を並べ替えることができます。
7. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前（例：「Least used 集計容量」）でビューを保存し、チェックマーク (✓)。
8. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. 新しいレポートのスケジュール特性を定義できるように、「スケジュールの追加」をクリックして「レポート スケジュール」ページに新しい行を追加します。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アグリゲートの容量に応じてHAペアのバランスを調整できます。

古いバージョンの**ONTAP**を実行しているノードを表示するレポートを作成します

すべてのクラスタ ノードにインストールされているONTAPソフトウェアのバージョンを表示するレポートを作成して、アップグレードが必要なノードを確認できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、古いバージョンのONTAPを実行しているノードを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ノード をクリックします。

2. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
3. 「OS バージョン」列を「ノード」列の近くにドラッグします。
4. 「OS バージョン」列の上部をクリックすると、結果をONTAPの最も古いバージョンで並べ替えることができます。
5. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: 「Nodes by ONTAP version」) でビューを保存します。
6. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
7. 新しいレポートのスケジュール特性を定義できるように、「スケジュールの追加」をクリックして「レポート スケジュール」ページに新しい行を追加します。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、古いバージョンのONTAPを実行しているノードをアップグレードできます。

総容量レポートをカスタマイズする

以下に記載するサンプルのカスタム レポートを使用して、アグリゲートのストレージ容量に関連する潜在的な問題を特定して対処することができます。

このセクションのレポートは、それぞれのストレージ システム リソースの監視に役立つアグリゲート容量レポートの作成方法を説明するためのサンプルです。

最大容量に達した集計を表示するレポートを作成する

容量がフルに近づいているアグリゲートを検出するレポートを作成して、容量を追加したり、ワークロードを他のアグリゲートに移したりすることができます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、容量がフルに近づいているアグリゲートを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > アグリゲート をクリックします。
2. [表示] メニューで、[容量] > [すべての集計] を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - フルまでの日数が45日未満
5. 「満杯までの残り日数」列の上部をクリックすると、満杯になるまでの残り日数が少ない順に結果を並べ

替えることができます。

6. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前（例：「全集約容量までの日数」）でビューを保存し、チェックマーク（✓）。
7. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
8. スケジュールの追加 をクリックして、レポート スケジュール ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク（✓）を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、容量がフルに近づいているアグリゲートのストレージを拡張できます。また、アグリゲートのスペースが少なくなった場合に早めにイベントを受信して対応できるように、「フルまでの日数」容量しきい値をデフォルトの7日より多い日数に引き上げることができます。

80%以上使用されている集計を表示するレポートを作成します

80%以上フルのアグリゲートを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、80%以上フルのアグリゲートを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > アグリゲート をクリックします。
2. [表示] メニューで、[容量] > [すべての集計] を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「利用可能なデータ %」列と「使用済みデータ %」列を「集計」列の近くにドラッグします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - 使用済みデータ（%）が80%を超えている
6. 「使用データ %」列の上部をクリックすると、結果を容量パーセントで並べ替えることができます。
7. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前（例：「Aggregates nearing full」）でビューを保存し、チェックマーク（✓）。
8. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. 新しいレポートのスケジュール特性を定義できるように、「スケジュールの追加」をクリックして「レポート スケジュール」ページに新しい行を追加します。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク（✓）を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、一部のアグリゲートからデータを移動できます。

オーバーコミットされている集計を表示するレポートを作成する

アグリゲートのストレージ容量と使用状況を分析するために、オーバーコミットされたアグリゲートを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- ・アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、オーバーコミットのしきい値を超えているアグリゲートを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > アグリゲート をクリックします。
2. [表示] メニューで、[容量] > [すべての集計] を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「オーバーコミット容量 %」列を「集計」列の近くにドラッグします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - オーバーコミット容量 (%) が100%を超えている
6. 「オーバーコミット容量 %」列の上部をクリックすると、結果を容量パーセントで並べ替えることができます。
7. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: Aggregates overcommitted) でビューを保存し、チェックマーク (✓)。
8. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. 新しいレポートのスケジュール特性を定義できるように、「スケジュールの追加」をクリックして「レポート スケジュール」ページに新しい行を追加します。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アグリゲートに容量を追加したり、特定のアグリゲートからデータを移動したりすることができます。

ボリューム容量レポートをカスタマイズする

以下に記載するサンプルのカスタム レポートを使用して、ボリュームの容量とパフォーマンスに関連する潜在的な問題を特定して対処することができます。

スナップショットの自動削除がオフになっている、容量がいっぱいに近づいているボリュームを識別するレポートを作成します。

Snapshotの自動削除機能が無効になっていて容量がフルに近づいているボリュームをリストするレポートを作成できます。このレポートは、Snapshotの自動削除を設定する必要があるボリュームを特定するのに役立ちます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順を実行して、必要な列を正しい順序で表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、[容量] > [すべてのボリューム] を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「Snapshot Autodelete」列と「Days To Full」列を「Available Data Capacity」列の近くにドラッグ アンド ドロップします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次の2つのフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - フルまでの日数が30日未満
 - Snapshotの自動削除が無効
6. [フルまでの日数] 列の上部をクリックすると、残り日数が最も少ないボリュームがリストの上部に表示されます。
7. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: 「Vols near capacity」) でビューを保存します。
8. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリュームでSnapshotの自動削除を有効にしたり、使用可能なスペースを増やす方法を特定したりすることができます。

シンプロビジョニングが無効になっているボリュームで使用されているスペースを識別するレポートを作成します

シンプロビジョニングされていないボリュームは、ボリューム作成時に定義されたスペースの全容量をディスク上で占有します。シンプロビジョニングが無効になっているボリュームを特定することで、特定のボリュームでシンプロビジョニングを有効にする必要があるかどうかを判断できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順を実行して、必要な列を正しい順序で表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、[容量] > [すべてのボリューム] を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「使用データ %」列と「シン プロビジョニング」列を「使用可能なデータ容量」列の近くにドラッグアンドドロップします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルター「シン プロビジョニング はいいえ」を追加して、「フィルターの適用」をクリックします。
6. 「使用データ %」列の上部をクリックすると、最も高いパーセンテージのボリュームがリストの上部に表示されるように結果が並べ替えられます。
7. ビューに表示されている内容を反映する名前 (例: 「Vols no thin provisioning」) を付けてビューを保存します。
8. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. スケジュールの追加 をクリックして、レポート スケジュール ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、特定のボリュームでシンプロビジョニングを有効にすることができます。

データをクラウド層に移動する必要がある**FabricPool**アグリゲート上のボリュームを識別するレポートを作成します

現在FabricPoolアグリゲートにあってクラウド階層に関する推奨事項があり、さらに大量のコールド データがあるボリュームのリストを記載したレポートを作成できます。このレポートは、より多くのコールド (非アクティブ) データをクラウド層にオフロードするために、特定のボリュームの階層化ポリシーを「自動」または「すべて」に変更する必要があるかどうかを判断するのに役立ちます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。
- FabricPoolアグリゲートを設定しておく必要があります。また、それらのアグリゲート上にボリュームが必要です。

次の手順を実行して、必要な列を正しい順序で表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、[パフォーマンス] > [すべてのボリューム] を選択します。
3. 列選択で、「ディスク タイプ」列がビューに表示されていることを確認します。

他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。

4. 「ディスク タイプ」列を「クラウド推奨」列の近くにドラッグ アンド ドロップします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次の 3 つのフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - ディスクタイプにFabricPoolが含まれる
 - クラウドに関する推奨事項に階層が含まれる
 - 10 GBを超えるコールドデータ

The screenshot shows a filter configuration dialog box with the following filters:

- Disk Types: contains fabricpool
- Cloud Recommendation: contains tier
- Cold Data: greater than 10 GB

Buttons: + Add Filter, Reset, Cancel, Apply Filter

6. [コールド データ]列の上部をクリックして、コールド データの量が最も多いボリュームがビューの先頭に表示されるようにします。
7. ビューに表示されている内容を反映する名前 (例: 「vols change tiering policy」) を付けてビューを保存します。

Volumes - Performance / Vols change tiering policy ⓘ

Last updated: Feb 8, 2019, 12:26 PM ↻

Latency, IOPS, MBps are based on hourly samples averaged over the previous 72 hours.

View

Vols change tiering policy ▾

🔍 Search Volumes

☰ 3

Volume	Cold Data	Tiering Policy	Disk Types	Cloud Recommendation	Free Capacity	Total Capacity
nfs_vol4	38 GB	Snapshot Only	SSD (FabricPool)	Tier	2.62 TB	3 TB
kjagnfsdst	28 GB	Snapshot Only	SSD (FabricPool)	Tier	121 GB	150 GB

8. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. 新しいレポートのスケジュール特性を定義できるように、「スケジュールの追加」をクリックして「レポート スケジュール」ページに新しい行を追加します。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示される結果に基づいて、System Manager またはONTAP CLI を使用して、特定のボリュームの階層化ポリシーを「auto」または「all」に変更し、より多くのコールド データをクラウド階層にオフロードする必要がある場合があります。

Qtree容量レポートをカスタマイズする

以下に記載するサンプルのカスタム レポートを使用して、qtree容量に関連する潜在的な問題を特定して対処することができます。

ほぼ満杯のqtreeを表示するレポートを作成する

qtreeのストレージ容量と利用率を分析するために、ほぼフルのqtreeを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ほぼフルのqtreeを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > **Qtrees** をクリックします。
2. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
3. 「Disk Used %」列を「Qtrees」列の近くにドラッグします。
4. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - 使用済みディスク (%) が75%を超えている
5. 「ディスク使用率」列の上部をクリックすると、結果を容量のパーセンテージで並べ替えることができます。
6. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: 「Qtrees nearing full」) でビューを保存し、チェックマーク (✓)。
7. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
8. スケジュールの追加 をクリックして、レポート スケジュール ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ディスクのハード リミットやソフト リミットを調整したり（設定されている場合）、qtree間でデータのバランスを調整したりすることができます。

NFS共有レポートをカスタマイズする

ストレージ システム上のボリュームに対するNFSエクスポートのポリシーとルール情報を分析できるように、[NFS共有]レポートをカスタマイズすることができます。たとえば、アクセスできないマウント パスがあるボリュームやデフォルトのエクスポート ポリシーを使用するボリュームを表示するように、レポートをカスタマイズできます。

アクセスできないマウントパスを持つボリュームを表示するレポートを作成します

マウント パスにアクセスできないボリュームを特定するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、マウント パスにアクセスできないボリュームのカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > **NFS** 共有 をクリックします。
2. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
3. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - マウント パスがアクティブではない
4. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前（例：「アクセスできないマウントパスを持つボリューム」）でビューを保存し、チェックマーク (✓)。
5. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
6. スケジュールの追加 をクリックして、レポート スケジュール ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
7. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アクセスできないマウント パスを修正できます。

デフォルトのエクスポート ポリシーを使用しているボリュームを表示するレポートを作成します。

デフォルトのエクスポート ポリシーを使用しているボリュームを検出するレポートを作

成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、デフォルトのエクスポート ポリシーを使用しているボリュームのカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > **NFS** 共有 をクリックします。
2. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
3. 「エクスポート ポリシー」列を「ボリューム」列の近くにドラッグします。
4. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - エクスポート ポリシーにデフォルトが含まれている
5. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前（例：デフォルトのエクスポートポリシーを持つボリューム）でビューを保存し、チェックマーク (✓)。
6. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
7. スケジュールの追加 をクリックして、レポート スケジュール ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、カスタムのエクスポート ポリシーを設定できます。

ストレージVMレポートをカスタマイズする

Storage VMレポートを作成して、ボリューム情報を分析したり、全体の健全性とストレージの可用性を確認したりできます。たとえば、レポートを作成して、ボリューム数の上限に達したSVMを表示したり、停止したSVMを分析したりできます。

最大ボリューム制限に達したストレージVMを表示するレポートを作成します

ボリューム数が上限に達しているSVMを検出するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム数が上限に達しているStorage VMを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ストレージ **VM** をクリックします。
2. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
3. 「ボリューム数」列と「最大許容ボリューム数」列を「ストレージ VM」列の近くにドラッグします。
4. 「最大許容ボリューム」列の上部をクリックすると、結果をボリューム数の多い順に並べ替えることができます。
5. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前（例：SVMs reached max volumes）でビューを保存し、チェックマーク（✓）。
6. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
7. スケジュールの追加 をクリックして、レポート スケジュール ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク（✓）を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、Storage VMに割り当てるボリュームを調整できます。また、可能であれば、ONTAP System Managerを使用して許容される最大ボリューム数を変更することができます。

停止したストレージVMを表示するレポートを作成する

停止しているすべてのSVMのリストを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、停止しているStorage VMを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ストレージ **VM** をクリックします。
2. [表示] メニューで、正常性 > すべてのストレージ **VM** を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「State」列を「Storage VM」列の近くにドラッグします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - 状態が停止である
6. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前（例：Stopped SVMs）でビューを保存し、チェックマーク（✓）。
7. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
8. スケジュールの追加 をクリックして、レポート スケジュール ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク（✓）を行

の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、SVMが停止した理由を調査して、停止しているSVMの再起動が必要かどうかを確認できます。

ボリューム関係レポートをカスタマイズする

ボリューム関係インベントリ レポートでは、クラスタ内のストレージ インベントリの詳細を分析できるほか、ボリュームに必要な保護レベルを把握したり、障害の原因、パターン、スケジュールに基づいてボリュームの詳細をフィルタリングしたりすることができます。

障害の原因別にボリューム関係をグループ化するレポートを作成する

関係が正常な状態でない理由別にボリュームをグループ化するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリュームを障害の原因別にグループ化するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、[リレーションシップ] > [すべてのリレーションシップ] を選択します。
3. 表示/非表示 を選択して、ビューに「関係の健全性」列と「不健全な理由」列が表示されることを確認します。

他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。

4. 「関係の健全性」列と「不健全な理由」列を「状態」列の近くにドラッグします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - 関係の健全性に問題あり
6. 「異常な理由」列の上部をクリックして、障害の原因別にボリューム関係をグループ化します。
7. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: 「Vol relationship by failure」) でビューを保存します。
8. インベントリ ページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者

にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、障害のタイプごとに原因と影響を調査できます。

問題別にボリューム関係をグループ化するレポートを作成する

ボリューム関係を問題別にグループ化するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム関係を問題別にグループ化するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、[リレーションシップ] > [すべてのリレーションシップ] を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「Unhealthy Reason」列を「State」列の近くにドラッグします。
5. 「Unhealthy Reason」列の上部をクリックして、ボリュームを問題別にグループ化します。
6. ビューに表示されている内容を反映する特定の名称 (例: 「Vol relationship by issue」) でビューを保存します。
7. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
8. レポートスケジュールの名称を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、問題のタイプごとに原因と影響を調査できます。

特定の時間間隔でのボリューム転送の傾向を表示するレポートを作成します

特定の期間のボリューム転送の傾向を表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、特定の期間のボリュームを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、関係 > 過去 1 か月の転送ステータス を選択します。

3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「転送期間」列を「操作結果」列の近くにドラッグします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - 転送終了時間が過去7日間以内
6. 「転送期間」列の上部をクリックすると、ボリュームを時間間隔で並べ替えることができます。
7. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: 「Volumes by duration」) でビューを保存します。
8. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、頻度を「毎週」に設定し、他のレポートフィールドに入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、転送期間を調査できます。

ボリューム転送の失敗または成功を表示するレポートを作成します

ボリューム転送のステータスを表示するレポートを作成できます。このレポートでは、失敗したボリューム転送と成功したボリューム転送の両方を確認できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、失敗した転送と成功した転送を表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、関係 > 過去 1 か月の転送ステータス を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[表示/非表示] を選択します。
4. 「操作結果」列を「状態」列の近くにドラッグします。
5. 「操作結果」列の上部をクリックすると、ボリュームをステータス別に並べ替えることができます。
6. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: 「転送ステータス別のボリューム」) でビューを保存します。
7. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、転送ステータスを調査できます。

転送サイズに基づいてボリューム転送を表示するレポートを作成します

ボリューム転送を転送サイズに基づいて表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム転送を転送サイズに基づいて表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、関係 > 過去 1 か月の転送率 を選択します。
3. 「合計転送サイズ」列の上部をクリックすると、ボリューム転送をサイズ順に並べ替えることができます。
4. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: 「転送サイズ別のボリューム」) でビューを保存します。
5. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
6. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリューム関係を転送サイズ別に調査できます。

日別にグループ化されたボリューム転送を表示するレポートを作成します

ボリューム転送を日付別に表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム転送を日付別に表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、関係 > 過去 1 か月の転送率 を選択します。
3. 「日」列の上部をクリックすると、ボリューム転送が日ごとに並べ替えられます。
4. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: 「Volume transfers by day」) でビューを保存します。
5. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
6. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリューム転送を日付別に調査できます。

ボリュームパフォーマンスレポートをカスタマイズする

以下に記載するサンプルのカスタム レポートを使用して、ボリュームのパフォーマンスに関連する潜在的な問題を特定して対処することができます。

FabricPoolが有効になっていないアグリゲート上の大量のコールド データを含むボリュームを表示するレポートを作成します。

FabricPool以外のアグリゲート上のコールド データを大量に含むボリュームを表示するレポートを作成できます。このレポートから、FabricPoolアグリゲートに移動する必要があるボリュームを特定できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、FabricPool対応でないアグリゲート上のコールド データを大量に含むボリュームを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ > ボリューム をクリックします。
2. [表示] メニューで、[パフォーマンス] > [すべてのボリューム] を選択します。
3. 表示/非表示 を選択して、ビューに「ディスク タイプ」列が表示されることを確認します。

他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。

4. 「ディスク タイプ」列を「コールド データ」列の近くにドラッグします。
5. フィルター アイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、[フィルターの適用] をクリックします。
 - コールド データが100GBを超える
 - ディスク タイプにSSDが含まれる
6. 「ディスク タイプ」列の上部をクリックして、ディスク タイプ SSD (FabricPool) が下部になるようにボリュームをディスク タイプ別に並べ替えます。
7. ビューに表示されている内容を反映する特定の名前 (例: "Cold data vols not FabricPool") でビューを保存します。
8. インベントリページの*スケジュールされたレポート*ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドを入力して、チェックマーク (✓) を行の末尾に追加します。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、FabricPoolアグリゲートに移動した方がよいボリュームを特定できます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。